

「産褥早期母児愛着形成支援」のための看護職トレーニングプログラムの介入効果

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大田, 康江 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003341

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第3号

「産褥早期母児愛着形成支援」のための看護職トレーニングプログラムの介入効果

(Evaluation of a training programme for nurses and midwives to facilitate mother-infant bonding in the early postpartum period)

大田 康江 (おおた やすえ)

博士 (看護学)

論文審査結果の要旨

本論文は、産褥早期の母児愛着形成には母子関係と同等に看護者と母親との関係性が重要であることに着目し、臨床看護師が良好な母子関係の構築を支援するアタッチャー（母児の愛着形成支援者）となるための、効果的な教育プログラムについて初めて明らかにした意義ある論文である。

コンテンツは、Janice(2008)が開発したHUG Your Baby日本語版を導入し、Moodleを使用してeラーニング教材を作成した点において、新規性がある。プログラムは、知識編、知識続編、実践編の3段階で構成され、実践編では事例を通して臨床実践に関連づけできるように作成されている。

研究協力者は、産褥早期の母児ケアに携わる看護者17名であった。介入前後における看護者の母児への関わりの言語的・行動的变化を、授乳ケア場面の参加観察法により定量的会話分析および事例分析を用いて評価し、認知的変化は介入後に看護者へのリフレクション面接を実施し、Braun(2006)のテーマ分析の手法により定性的評価を行っている。

トレーニングの結果、看護者の母児への関わりの言語的变化は、介入後は看護者・母親ともに「相互作用促進」発話が有意に増加したことが認められた。また、介入後には、13名の看護者が児の行動に意識が向き、児を一人の人間として捉え、児のサインをキャッチし、適切に応答できる児への応答性が高められたことが示された。新生児の行動に関する新たな知識やスキルを獲得したことにより、児の行動観察の重要性の気づきが芽生え、乳房管理偏重、看護者主導などの自己の母児ケアへの内省がみられ、自己の経験知による実践と今回獲得した新たな知識やスキルとのすり合わせ作業の中で、葛藤を抱いたことも表出された。

本トレーニングプログラムにより明らかにされた介入効果は、従来の母児ケアに対する教育のあり方に一石を投じる内容であり、今後の母性看護学の方向性を示唆する重要な論文である。よって、本論文は博士(看護学)の学位を授与するに値するものと判定した。